

TheatreGroup"OCT/PASS"vol.34 上演台本

方丈の海

石川裕人
作

方丈とは一丈すなわち、約三メートル四方の狭い部屋の意である。

三メートル四方の海なんて、どこにある？

海はただっ広いから方丈に切り取ってみる。

切り取ったらなにかわかるかもしれない。わからないかもしれない。海が襲来する風景をわたしたちは既に視てしまった。

その跡には文明の残滓が瓦礫と名を変えて、広大な荒野をつくった。悲劇はその後にやってきた。

残った人間が悲劇の元になり、悲劇を生きる。

災厄は無情で滑稽な相貌を出現させる。

人間の心の奥深くに眠っていた制度や倫理への乖離が浮上してきた。更新される震災の記憶。

新しい約束の場所は現実のものとなって立ち現れるのだろうか？

登場する方々

らんる
檻樓

岡田英一

岡田時子

岡田とと

漠

麒麟

こぶしなぐさ
小節咲郎

うえ
ビッグ宇江

こさくらふたみ
小桜双三

カイコー

いしもちいわお
石持岩男

すけかみ
壽賀子

クロス

かつて町が在った小さな海辺。

巨大津波がこの町を根こそぎ倒し、町のかげらを海の底へ持って行った。かろうじて残った建物は何の役にも立たないが、雨風くらいはしのげる。ことが出来るものもあった。

スクリーンのようなものがあるからそこはかつて映画館だったと思われる。

すさまじい音。

超巨大な水の塊が陸地を襲うと黒煙が上がることを初めて知った。それを直に見た人には黒煙は妖怪変化とも思われただろう。

登場人物たちが方形の枠を持って現れる。みんなが目を剥きその枠の中からあらゆる方向を覗いている。

声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

あれは海か？

海が膨張している！！

世界中の海がこの岸に集まってきたのか？

途轍もない大量の海だ。

無限の力を誇示する海だ。

堤防を越えたぞ！！

荒くれだった海。

引力を無視して上へ伸び上がる海。

全ての文明の財産を打ち壊し海底へと引きずり込む。

終わった。すべて終わった。

情け容赦ない天の気まぐれ。

堤防を越えたぞ！！

阿鼻叫喚も消え失せ、瓦礫の荒野。

残ったものは心のかげら？

唱和 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

一縷の望み？

人の営み？

無一物の人だけが残った。

終わった、すべて終わった。

その人の回りには物が溢れたが、心のかげらは無一物と判断した。

生きる。

生きるか？

生きられるか？

無一物のわたしは物の氾濫の中を泳ぎ切れるのか？

堤防を越えたぞ！！

海底へ引きずり込まれたわたしの所有物よ。

わたしもその氾濫にまみれて消え失せたかった。

あれは海か！？

まぎれもなく海だ。

唱和

あれは海か！？
海だ！！

去る。

風。

荒野に一人檻樓の者が杖をついて登場する。

檻樓

雪が降ってきたっけな。天変地異が訪れると必ずそういうことが起こる。
寒い夕方そして夜になった。

2012年三月十一日、午後二時四十六分だった。今から十年前のことだ。

もうみんな忘れてしまったろう。ま、そういうもんだ。熱いところ過ぎればいつしかすべてが無かったことのように語られる。けれどわたしは

Remember Akastuki Harbor!

おお、敵性言語を使っちゃった。そういえばあん時アメリカさんは「とも

「だち作戦」とかいつて救援の手を差し伸べてくれたっけ。第二の進駐軍現るだったなあ。

ここは暁浜という小さな入り江だ。小さな入り江に見合った小さな漁港。半農半漁の町はおだやかな気質の人たちばかり二百人くらいが住んでいた。しかし、あの大津波で町は全滅してしまった。町はことごとくやられ川を遡った海は山の小学校を呑み込み、多くの子どもたちを海へ運んだ。それを助けようとした先生や親たちも一緒に道行きになってしまった。

風。

檻樓、映画館廢墟の前に立つ。

檻樓

この暁浜には珍しくも映画館があつた、岡田劇場。もちろん都会の小綺麗な映画館じゃない。喫煙ご自由、便所の臭いが客席まで漂ってくるテイストオブ昭和の代物だった。館主の岡田英一の道楽みたいなもんだ。自分の

好きな映画をただただかけてはその日暮らしの映画渡世だった。岡田英一はあの津波で生き残ったが目をやられてしまった。自分が生涯かけて愛してきた映画を見られなくなってしまうんだ。そして、映画館はまだ撤去もされず残っている。撤去もされずというより、ここも忘れられた元建築物だ。

『ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖すみと、又かくのごとし。たましきの都のうちに、棟を並べ、

薨あしたを争へる。朝あしたに死に、夕ゆうべに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりけ

る。不知しらず、生まれ死ぬる人、いづかたより来りて、いづかたへか去る。』

「方丈記」の一説を朗唱し出すと崩れ落ちているスクリーンに映像が浮かびあがる。

それはあの子の後の惨状である。

檻樓

どうしたんだろう、廃墟のスクリーンに今夜は何か映ってる。

檻樓、客席の残骸の中に埋もれる。

大人と子どもがいる。

子ども

(歓声を上げる)

岡田

(サングラスをかけている) どうした？とと、何か映ったのか？

とと

ああ、なんか映ったような気がしたんだけど、消えてしまった。やっぱりな、それいつも塩でやられてしまったか。

岡田

なんの映画だったのかな？

とと

岡田 フィルムケースに書いてないか？

とと (フィルムケースを見る) インクの流れた跡がある。

岡田 タイトルも流されてしまったか。

とと 愛という字が残ってる。

岡田 「愛と青春の旅立ち」、「ある愛の詩」、「愛と哀しみのボレロ」、「愛と哀し

みの果て」、「愛の嵐」、そんな映画この岡田劇場じゃかけたことない。

とと 日本映画じゃないの？

岡田 「愛のコリーダ」、「愛の新世界」、

とと どっちもポルノじゃないか。

岡田 それしか思い浮かばん。

とと 「男はつらいよ 寅次郎恋愛塾」かもしれない。

岡田 出たな映画小僧の豆知識。そんな映画あつたっけかな？

とと 1985年製作、マドンナは樋口可南子。

岡田 うちは松竹映画はかけなかったからな。

とと 同時期の東映映画は？

岡田 同時期の東映？ええと、1985年だからな…

とと 「極道の妻たち」。

岡田 ブー（不正解）。

とと え？

岡田 正確にはごくどうのおんなたち。

とと だって「ごくつま」って言ってるじゃないか。

岡田 そういやそうだな。

とと もう一回そうか？

声がする。

声 とと、もうやめて。

女が出てきた。

女

父ちゃんを休ませてやりなさい。

岡田

時子いいんだ、俺は疲れてなんかいない。

時子

疲れてるはずよ。だって、夕ご飯食べてからもうかれこれ四時間ぶっ続けでやってる。

岡田

この時間の止まってしまった町で目的のある時間はないくらいだよ。

時子

このあてどない上映が？

岡田

あてどない上映じゃない。2011年三月五日公開の春休み映画「ドラえもん

新・のび太と鉄人兵団 はばたけ天使たち」のフィルムが流されずに残っているはずだ。それを見つけて子どもたちへの供養の上映をやりたんだよ。

時子

それはわかるけど、

岡田

この目さえ見えればフィルムがどうなってるかもわかるんだが、

とと
だから俺が父ちゃんの技を盗んで後を継ぐよ。この晝浜に映画館を再建する。

時子
映画館を再建するって、映画館はお客さんがいなきや意味がないじゃない。

この浜にはもう誰もいないのよ。

とと
いいよ、誰も観に来なくなつて。

時子
ええ？

とと
魚が観る。

時子
(笑う) どういうこと？

とと
魚になつた子どもたちが観る。魚になつたあつちちゃんや、じんた、さえちやん達に観せる。

時子
…じゃあ海の中に映画館を建てるの？

とと
その通り。珍しいから人も来るはずだ。

とと、お前はいい興行師になれるな。

岡田
人にも魚にも受ける映画を仕入れなくちゃならないのが大変だけどね。

岡田 海の映画か、

とと 「グランブルー」、「パイレーツ・オブ・カリビアン」、

岡田 「太陽がいつぱい」、「ボセイドン・アドベンチャー」、「海底三万マイル」、

とと 「タイタニック」…、母ちゃん何かない？

時子 「釣りバカ日誌」、

とと ベタ過ぎる。(こりや駄目だ)

時子 あと「釣り吉三平」、

とと それは川です。

時子 あそう？

岡田 (時子に) 明日の巡回映画はどこだっけ？

時子 山田町の新装した公民館。

岡田 山田町か、ちよつと遠いなあ。寝るか、

時子 はい寝て寝て、

岡田 とと、お前も寝ろ。

とと ああ、映写機の回り片付けたら。

岡田、去る。

入れ替わりに男女二人入ってくる。二人は酔っぱらっている。

二人 行つてらっしゃーい、

とと ただいまだろ？

おや、ととお坊ちやま、まだ起きてるんですか？

麒麟 もう大人の時間帯でちゅよ。

時子 ずいぶんご機嫌だわね。

漠 ええもう毎日ご機嫌ですよ。

麒麟 ご機嫌のバーゲンセール連日大開店！！

とと うるさいから早く寝ろよ。

漠 あらまあ！！上から目線、なんて言いぐさだろうねえ、

麒麟 船に乗せてやらないわよ。
とと 船なんか無いじゃないか。漠と麒麟はVHSのビデオテープだって父ちゃ
んが言ってた。

漠 俺と麒麟がVHSのビデオテープ？なんじゃそりや？
とと 今では使い物にならない。

麒麟 ？
漠 ？

とと 船のない漁師の漠と麒麟のことさ。

漠 あ？あ？あ？あ？

麒麟 あ？あああああ、(納得)

漠 おい、麒麟、お前わかったのかよ。

麒麟 わかった。あたしたちには船がないから使い物になんないんだってよ。

漠 なるほど、海に潜った海女さんだな。

麒麟 え？いいんじゃない。

漠

俺の言うあまさんはつるりの方だよ。

時子

寂聴さんね。

漠

そ!!寂聴さん海に入ったら溺れるぞ。(急に) なんだとお!?

とと

怒るの遅い。

麒麟

兄ちゃん、怒ることないって。あたし達はもうすぐ使い物になるだろう?

漠

んだな。(ニユニユ)

時子

え?使い物になる?もしかして船、

漠

そう!!こつこつこつこつ作ってきた第三暁丸がいよいよ出来上がるんだ。

とと

ええ!?

二人

(大声で笑う)

時子

だからご機嫌なんだ。

漠

んだす。

時子

お祝いしなくちゃね。

漠

これでうまく漁が軌道に乗れば、今度は家を建てる!!

麒麟

ととの家もついでに建ててやるぞ!!

とと

ほんとう?

麒麟

漁師嘘つかない。

時子

いいから、まずはあんた達の家建てなさい。

漠

長いことおいてもらって、本当に感謝してるよ。

時子

この晝浜に残ったのはわたしのとこと漠ちゃんと麒麟ちゃんの兄妹だけ。

ここに漠ちゃん達が家を建てたらこの浜を出て行った人たちも戻ってくるかもしれないね。

漠

そうなるといいけどな。まずはお上がなんていちゃもんつけてくるかだよ。

時子

大丈夫、来ないよお上なんて。わたしたちは忘れられた日本人だから。

麒麟

忘れられた?

とと

忘れられてる。だって学校が俺を呼びに来ない。

漠

そうか、ととは学校行ってなかったな。

麒麟

町の分校の先生も生徒もほとんどが海にさらわれてしまったしね。え?だ

時子

から忘れられたの？

真相はわからないわ。でもこつちから学校のこと聞いたのに音沙汰は全然無し。

漠

ととは学校行つてれば小学坊主か？

とと

もう中学生。

麒麟

もう中か。

とと

もう中だ。

麒麟

大きくなつたねえ。

漠

毛も生えたか？

麒麟

(漠をどつく)

とと

生えた！！

漠

(麒麟に) 見ろよ、あつけらかんとしたもんだぜ。

麒麟

でも、ととは学校行つてなくてもチョーヨーあるよね。

とと

教養。

時子

学校いなくてもいいんだけど、この子には同年代の遊び相手がなくなつたのがかわいそうだったわ。生き残つた子どもたちは親と一緒に、親戚に引き取られ歯が抜けるようにまったくいなくなつてしまった。

麒麟 漠

そうだなあ、俺たち漁師仲間もみんなどこでどうしてるんだかなあ。陸に上がった漁師は役に立たないって本当だよ。

時子

アル中で野垂れ死んでつかも知れないなあ。
(気分を変えるように) ところで、いつ進水式やるの？

とと

まあ、あとは塗装をするだけだからこの二週間以内には海に出られる。俺も乗つけて。

麒麟

おうよ!!!
ながしまよ!!!
もちろんエンジンついてるんでしょね？

時子

漠と麒麟の様子が変わる。

時子

どうしたのよ？

漠

それを言わないで！！

麒麟

とりあえず手こぎで！！

とと

あの大きな漁船を？

漠

まずは第三暁丸が浮かぶかが問題。

麒麟

そうそう、潜水艦作つたわけじゃない。

漠

瓦礫と一緒に打ち上げられた第三暁丸の傷んだところ隅々に手を入れたか

麒麟

らまず浮かぶとは思う。

漠

思うとき、思えば、思え、思おう！！

麒麟

問題は焼き玉エンジンだ。

漠

海水をかぶって多分使い物にならない可能性が高い。

とと

高井たかし。

とと

だれ？

高校んときの同級生。

麒麟

でもしかし、

駄目でもあきらめない。中古のエンジンはいっぱいある。

麒麟

まずは第三暁丸を海に浮かべる。

あの津波以来この暁浜に初めて浮かぶ漁船だ。

麒麟

朝陽を浴びて静かに眠る姿を見たいねえ。

向かい風を受けて力強く外洋に出る船が見たかった。

時子

夕陽の港が好きだったわ。穏やかな海にどんぶらどんぶら揺られてる船が

赤く染まってるね。

とと

俺もうっすらと覚えてる。

時子

そりゃそうよ、この浜と港はととの庭みたいなもんだもの。

漠

そう、だから俺たちは自分の庭から離れたくなかった。たとえ不便だろう

が、

麒麟

また大きな津波が来たら、

漠

時子

津波でんでんこ、即逃げりやいい。

そのために生活は質素に家もぼろやでいい。ぺっしやんこになったらまたすぐ起こす。

漠

麒麟

そういうこと。

そういうこと。

時子

浮かぶといいね。

漠

ああ、

麒麟

浮かぶ浮かぶ、大丈夫。

とと

二人のバカ力があれば沈むモノも浮かぶ。

漠

そういうことだな、

麒麟

いま二人つて言った？ねえ、とと。

漠

いいから麒麟、寝るぞ。

時子

お休み。

二人

お休み。

時子

二人、去る。

(ととに) さあ、明日早いから寝よう。

ト、入ってきた男がいる。

男は仏壇を背負っている。

あの、

時子 男

(びっくりする)

とと

誰だお前は？

男

すみません、闇夜で迷ってしまって。灯りがついてたもんですから。

時子

急に入ってくるんだもの。

男

すみません、

とと

父ちゃん起こしてくる？

時子
お願い。

とと、岡田を呼びに行く。

時子
座ったら？

男
すいません、結構です。

時子
どこから来たの？

男
どこから？ああ、ええ、岩手県の浪板なみいたから、

時子
歩いて？

男
波板から青森の八戸へ向かい、そこからまた南下して茨城県の磯原町まで
行き、北上しここまで来ました。

時子
…そう、

男
骨を捜しています。いや、遺留品を、いや、なんでも、

岡田、ととに連れられて登場。

いい夢見てたところだったのになあ、いま何時だ？

十一時ちよつと過ぎ。

すいません、こんな夜分。

どんな用件だい？

家族の骨を、

捜し歩いてるのか？

小節咲郎です。

こぶしさくろう？♪（「北国の春」の一部を歌う）

そうです。よくそうやって歌われます。

とと、酒持ってきてくれ。

英ちゃん、明日早いんだから。

あんたも飲むか？

岡田 時子 岡田 男 岡田 時子 岡田 小節 岡田 小節 岡田 時子 岡田

小節　いえ、わたしは、

岡田　腹空いてるんじゃないのか？

小節　いえ、わたしは、

時子　遠慮することないのよ。とと、お酒と一緒に明日のおにぎり持ってきて。

小節　おにぎり！！（急に倒れる）

とと　（小節のそばにより）この人、仏壇背負ってるよ。

音楽。

時子　やっぱりお腹空いてるのね。今夜はこのまま寝かせておきましょう。怪し

い人じゃないみたいだし、とと、毛布持ってきて。

（毛布を取りに）

仏壇か…、

ええ、仏壇。

岡田　時子

とと

岡田

仏壇のセールスマンだったりしてな。

ととが持つてきた毛布を小節にかけて家族は去る。

入れ替わるように檻樓がやってきて小節のところへやってくる。

小節、夢から醒めたようにふーっと起きあがる。

小節

海だよ、いつもの海だ。

檻樓

どんな案配の海だ？

小節

風いだ穏やかな海だ。

檻樓

それは良かった。

小節

でも、

檻樓

でも？

小節

入り江の浜が孕んでいる。

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

入り江の浜が波を受けて孕んでいるのか？

波じゃない。波よりもっと巨大なもの。

海か？海は凧いでいたのじゃなかったかい？

海は千の表情を持っている。

刻々と変わる生き物の海。

大きな黒い海の猛りに抗いきれなくて孕んでいる。

そして海の壁が襲来した。

お婆さん。

婆さんじゃない。

失礼しました。

これでもまだ十八だ。

嘘言っちゃいけない。

わかるか？

一目瞭然。

檻樓

なんだ？

小節

は？

檻樓

何か聞きたいことがあったんじゃないのか？

小節

あなたを何回も見かけたような気がするんですが。

檻樓

ほう…、

小節

お婆さんはどこでも似たような姿形ですから、遠目に見たら誰が誰だかわ

からないが、岩手、宮城、福島、青森の名もない浜辺、小さな港、荒涼と

した砂浜の風景の中にあなたはいたように思うんですが。

そうなあ、そういうこともあるかもしれないな。

でも、そんなことが出来るのは人間業じゃない。

檻樓

(仏壇を) どなたさんが入ってるんだ？

小節

家族七人、犬一匹、猫二匹…、遺体も遺骨もなあんも上がりません。兄貴

がその日乗っていた軽トラのナンバープレート、骨を折っていたおふくろ

のギブスのかけら、親父の実印、家族のアルバム、

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

檻樓

小節

この浜でも捜すのかい？

百七十七カ所目の土地です。

家族は喜んでるだろうよ。あんたのその旅を。

そうだといいんですが。

見つからなかつたらどうするんだ？

…、

死んでもいいんじゃないか？家族の後を追って。

…、

この世に生きるのは労苦だけだとすれば、

(深々と頭を下げ) ありがとうございます。明日からこの浜をじっくりゆ

つくり捜します。

そして、昏倒したときのように小節は静かに倒れ行く。

檻樓

よのなか

『すべて世中のありにくく、わが身とすみかとはかなくあだなるさま、
又かくのごとし。いはむや、所により、身のほどにしたがひつつ、心を悩
ます事は、あげて不可計。かぞふべからず人をはぐくめば、心恩愛につかはる。世にし
たがへば、身苦し。したかはねば、狂せるに似たり。いづれの所をしめて、
いかなるわざをしてか、しばしも此の身を宿し、たまゆらも心をやすむべ
き。』

あの震災から十年経つてもまだ遺骨を捜す人間がいる。

津波でやられたほとんどの港のある町は復旧したが、津波前の町に戻るこ
とはなかった。お上が海のそばに住むことを禁じたし、高い防潮堤を作つ
たおかげで海が見えなくなった。観光地として栄えていた町もこれが仇に
なり人っ子一人いない素寒貧の町になってしまった。

勢いある者は貪欲深く、無用の土地といいくるめ濡れ手に粟の如く土地を

かつさらった。

安逸な場所に住む人間は、遺骨捜す人を気色悪がり、海に取り込まれた人々を忘却した。心戻そうとする必死の若者を嘲笑い世の中から追い出した。

そして人心は弱肉強食に則った世の中に翻弄された。

そんな世の流れから置き忘れられた晝浜だが、貪欲な者には独特の嗅覚がある。

常にそんな奴らがこの世の暗部をさらけだす働きをしてもいた。

檻樓、去る。

音楽。

方丈の木杵を持った人間たちが再び登場。

天気は？

快晴だ。

声 声

声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

なれど波高し。

どのくらい高い？

どのくらいかな、

十メートル。

また始まった、得意の十メートル。

あれ以来物の高さがわからなくなった。

ある者はあれ以来、この世の全ての高さを十メートルと決めてしまった。

富士山も、

十メートル。

街角のポストも、

十メートル。

つまようじも、

十メートル。

ガリバーでも十メートルはない。

声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

それでも十メートル。

しかし、津波は七メートルもある防風林を越えて押し寄せた。優に十メートルはあつたんだ。

黒い煙を巻き上げた高さ十メートルの波の上で踊っている奴がいた。

伝説の波乗り男、ビッグ宇江だ。

ビッグ宇江？

往年のハリウッド映画「ビッグ・ウエンスデイ」から取った名前だよ。

ビッグウエか、

頭悪そうな名前だ。

確かに。

しかし、この国で知らぬ者はいないサーファーだった。

でも、あれ以来行方不明になってしまった。

噂ではな、

声 声 声

噂？
噂なのか？
海に持って行かれたんじゃないのか？

上半身裸の男が立つ。

サーフボードを持っているからこれが話題のビッグ宇江なのか？

ビッグ

俺は誰でしょう？

木杵を持った者たち去る。

ビッグ

（大きなくしゃみを一発） いったいここはどこだ？ここあと言えばココアが飲みたい。バンホーテンの熱いミルクココアだ。（急に笑い急に笑い止み手に持つサーフボードを見つめる） しげしげしげしげ、一体これは何だ？

アイロン台にしては大きすぎるし、まぐろ用のまな板か？なんで俺はこんな物を持ち、上半身裸なのだ？上半身裸のクリーニング屋だろうか？上半身裸の魚屋か？わからない。それに俺は自分の名前さえわからない。「上半身裸の名前のわからないクリーニング屋」でググルと（検索すると）ヒットするだろうか？

そこへ、ビッグに輪をかけてうさんくさい奴が登場する。

こいつ、幌のついた荷車を引っ張っている。

名うてのバカだな。

ビッグ 奴

誰だ？

ビッグ 奴

しかし、ある種天才でもある。

後ろから読んでも誰だ？

ビッグ 奴

「誰だ」は回文だったのか！我々はシンプルなことを見落としている。

ビッグ
奴

お前は誰だ？

ビッグ
奴

その前にあんたこそ誰だ？

ビッグ
奴

Oh! そうだった。お前が誰だと聞く前に俺が誰だかわからない。

ビッグ
奴

あんたはビッグ宇江だよ。

ビッグ
奴

ビッグ宇江？（笑い）バカな名前だ。

ビッグ
奴

あんたが自分でネーミングしたんだぜ。

ビッグ
奴

だとしたら俺はバカなのか？

ビッグ
奴

諸国に轟くバカだ。

ビッグ
奴

なんと！！すぐここで改名する。海が見えるから山田利発という名にしよ

ビッグ
奴

う。どうだ？頭良さそうだろう？

ビッグ
奴

もつとバカっぽい。ビッグ宇江、その名を捨てちゃいけない。

ビッグ
奴

何故だ？

ビッグ
奴

あんたは有名人だからさ。

ビッグ
奴

クロマニヨン人とか明石原人とか、

奴 人類の種類じゃない。

ビッグ 俺はなんで有名なんだ？

奴 その持つてる物で有名だ。

ビッグ アイロンがけでか、それともまぐろの解体ショーか？

奴 本当に記憶が無いんだな。サーフィンだよ。ビッグ宇江は有名なサーファーだ。

ビッグ サーファー？（ボードを見て）これはアイロン台でもまぐろ用のまないたでもなく、サーフボードだったのか？

奴 あんたはあの大津波を十五秒間も攻略したんだ。その様子はユーチューブで全世界に流され津波の映像とともに大ヒットした。その映像があんたを有名にした。

ビッグ 津波でサーフィンしたのか？

奴 十五秒っていったら長いぞ。（十五秒カウントする）ほら、長い。あんたはその日世界的英雄になった。が、その日から行方不明だ。みんな海に持つ

ビッグ

奴

て行かれたんだろうって思った。そして、あの大津波の波乗り映像を残してあんたは伝説の英雄になったんだよ。

(呆然として) まったく覚えていない。

忘れちまって良かったかも知れないな。あの津波、さぞや恐怖だったことだろうからなあ。

ビッグ

あんた、誰だ？

奴

国際(こ・くさい)興行の小桜双三ふたみだ。

ビッグ

くさい？

小桜 ああ、プンプン臭う。

ビッグ

あんたが今語った俺のことは本当なのか？

なんでビッグ宇江さんに嘘をつかなければならないんだ？ミイは興行師だぜ。儲け話は逃さない。

ビッグ

俺はもうサーフィンなんてできないかもしれない。

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

しばらく乗らなくても自転車には乗れる。泳ぎもやれる。そんなもんさ。伝説のビッグ宇江のサーフィン姿を見に世界中から見物客がやってくる。だってあんたはこの十年間行方不明だったんだぜ。少しずつ記憶も戻ってくるだろう。そうしたら自伝出版だ。ビッグ宇江著「ビッグな波にさらわれて」ってのはどうだ？なんならミーがゴーストライターやってやる。本はこういう関係が得意な宝島社から出そう。よしよしよし、見えてきたぞ。これで完璧だ。カイコーと二枚看板でいける！！

カイコー？

ミーは驚くべきネタを持っている。(幌の中をチラリ見やり) 日本海溝って知ってるか？。

？

世界で最も深い海の溝のことだ。

深海のドブか？

そいつが東北沖にある。十年前の巨大地震から一年ばかり経った頃、三陸

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

沖でほれまおって白身の魚が大量に捕れたんだ。学者によればほれまおは日本海溝の奥深くに棲息する深海魚だ。そのほれまおが地震で断裂した海底深くから一年かけて上がってきたものだろうって推測だった。

ほう、そいつがその中にいるのか？
ほれまおは魚屋に並んだから珍しくもなんともない。もつとすごい生物が現れたんだ。

ウワ！！

(もびつくりして) バカ、

はい。

バカで返事するな。びつくりするだろうが。

「もつとすごい生物」に反応してしまった。

鋭い感受性だ。まあ、本当にすごいんだがな。

俺はいい。

なにがいいんだ？

ビッグ

見なくても。

小桜

臆病風が吹いてきたか？どうせ、今に見ることになる。

ビッグ

俺はあんたと組まないから見ることはない。

小桜

ミーと組まないって？記憶喪失のサーファーがどうやってこの世の中を波乗りしていくんだい？

ビッグ

ある時はこれを（ボード）アイロン台にし、またある時はまぐる解体をして波乗りしていく。

小桜

アイロンをかけたこともない、あじを三枚にも下ろせない奴が渡れるほど世間は甘くないぞ。それより昔取ったきねづかで一度海に入ってみたらどうだ？すぐそこに海がある。大体ビッグは海から戻ってきたんじゃないのか？

ビッグ

わからない。

小桜

急にこの浜に降り立ったエイリアンでもあるまいし、

ビッグ

わからないんだ。

小桜

幌の中から意味不明の音がする。
お目覚めだ。

小桜、幌を開ける。

音楽。

そこに水浴びをする、なんというか、半魚人がいた。
冗談ではない。

小桜

日本海溝の奥深くでひっそり暮らしていた水棲生物、カイコーだ！！

ビッグ

(あんぐり口を開けたまま呆然)

小桜

(携帯していたラジカセのスイッチを入れると音楽が流れる)

カイコー

冗談でも法螺でもない。この世の中には我々の知らない神秘の世界がまだ

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

小桜

ビッグ

カイコー

ビッグ

小桜

まだあるのだ。十年前の大地震で日本海溝に地殻変動が起こり、全長八百キロメートルに及び長々と寝そべっていた龍が天空に飛翔したという。その後上半身は魚、下半身は人間というこの生物が出現した。

人魚か？

半魚人だ。

半農半漁の人か？

half human half fish.

なんてこったい！！

生物学的カテゴリーで、これは半魚人としか断定できない。と、コーネル大学のデユプリー教授が太鼓判押した。

ウツソー！！

ホントー、

ウワ！！

すごいだろ？語学能力もある。実は一人、いや二頭いたんだが、

カイコー

小桜

(さめざめと泣き出す)
感情もある。そこいら辺の人間よりも情が深い。多分、恋人か夫婦だったんだろう、死んでしまった。

カイコー

ビッグ

小桜

(写真を出し、大泣き)
(それを見てもらい泣き)

どうだね？ビッグ、カイコーが可哀想だと思ふならミーの一座に入らないか？待遇は保証する。カイコーはさすがに眉唾もの扱いされるが、あんたはビッグ宇江だ。身元もはっきりしてる。

ビッグ

小桜

俺は自分の身元がわからない。
だからサーフィンをやってみろよ。一発であんたの素性がわかるし、記憶も一気に戻るかもしれない。

波の音。

ビッグ

カイコー

ビッグ

小桜

(サーフボードを見つめ)

ウミノソコ、ハルカウミノソコ、ワレキタリシ、ウミノソコ、

(彼方を見つめる)

Big Go Home! 海に入れ、そこがあんたのアルカディアだ。

ビッグ、ゆっくり前へ進む。

波の音が大きくなる。

そこへ、漠と麒麟がやってくる。

麒麟

漠

小桜

兄ちゃん、誰かいる。

この浜に住んでた人間じゃないな。あんたらそこでなにしてるんだ？

ビッグ、手を貸せ。

小桜とビッグは荷車を引いて遁走する。

漠

麒麟

漠

麒麟

漠

麒麟

漠

麒麟

おい、どこへ行くんだよ？

おい、

うさんくさい奴らだな。

サーフボードかな、あれ。

じゃあ、あいつはサーフボアーカーか？

は？

サーフボアーカー、

それを言うならサーフボアーカーだよ。

漠、急に走り出す。

麒麟も仕方なさそうに後を追う。

暗転。

映画館傍に車が止まり、中から岡田親子三人が降りる。

岡田の手をととが引いている。

お客さん、いっぱい良かったね。

岡田 まだまだ映画は捨てたもんじゃないな。子ども達はとうだった？
みんな眼を輝かせて食い入るように見てたわ。

とと あんな怪獣映画で眼を輝かせてるようじゃ、まだまだガキだな。

時子 あんただってガキじゃない。

とと 俺はガキじゃない。

時子 じゃなんなの？

とと なんだかわからないけどガキじゃない。

岡田 よし、大人のととには映写機とフィルムを片づけてもらおう。
とと 毎度やってるだろ。

とと、車から映写機など荷物を降ろし始める。

小節が登場。

時子 おにぎり、食べた？

小節 どうもご馳走さまでした。あんなうまいおにぎりは何年ぶりでしょう。

時子 それは良かったわ。

小節 お二人がいない間にこんな人がやってきました。

一枚の名刺を時子に渡す。

岡田 誰だ？

時子 大関東不動産・石持岩男。
いしもちいわお

岡田 不動産？

小節 まだだけ来るって言ってました。

岡田 「ただだけくる」ってなんだよ？

小節 さあ、

岡田 しかし、不動産屋がなんの用事だろうな。

時子 まさか、映画館を買い上げるとか、

岡田 そんな奴はよっほどの道楽者だな。

時子 ところで、小節さんはどうする？

小節 は？

時子 今日も泊まるでしょ？

小節 え？そんなことは考えていませんでしたが。

時子 「いませんでしたか、」ってもう夕方だよ。わたしは今から夕飯の支度する

から人数を把握しておかないとね。

小節 はあ、

岡田 遠慮することはない、泊まってけ。家にはもう二人居候がいる。

小節 そうなんですか、

時子　もうそろそろ帰ってくる時間だわ。
小節　それじゃよろしくお願いします。

時子、下がる。

とと　片づけ終わったよ。

岡田　おう、ご苦労さん。

とと　（小節に）仏壇下ろさないの？

小節　もう肌の一部なんです。

とと　ええ！？肌の一部？（怖々見つめる）

家の仏壇も先祖代々のお墓もみんな流されてしまったので、この仏壇は買ったんです。自分の背丈に合うような物を求めました。わたしが住んでいた近隣の仏具屋さんはずべて地震と津波でやられ、この仏壇は盛岡で買いました。

岡田　今日は捜したのか？

小節 ええ、昼から捜しましたが、なにも見つけられませんでした。

岡田 ここを寝倉にして捜せばいいさ。

小節 そんな…、

岡田 どうせこんなあばらやの映画館だ。雨風しのげるだけでも御の字だろ？

とと 御の字だろ？

小節 そりゃあ大御の字です。

漠と麒麟が帰ってくる。

二人 ただいまあ。

麒麟 (小節を見つめ) お客さん？

とと 小節さん、

小節 咲郎です。

獏、麒麟、岡田「北国の春」の一部を歌う。

小節

漠

ありがとうございました。もう無くなつてしまつた故郷の歌です。そんなこと言つたらここだつて無くなつてしまつた。

麒麟

あんたとあたしらは同じ種族だよ。

岡田

種族か、何万人つて俺たちと同じ種族がこの国に散らばっているんだな。

漠

ところで、あんたの背負つてるそりやなんだい？

小節

(振り向く)

漠

茶箆筥か？

麒麟

仏壇だよ。

漠

拝ませてくれ。

小節

遺骨も遺灰もないんです。

漠

いいよ、なくても。あんたの心が入つてるだろ？

小節

(線香を出し獏に渡す)

漠

(合掌)

麒麟

あたしも。(も同じく合掌)

小節

ありがとうございます。

とと

俺も、(も同じく合掌)

小節

ありがとう。

麒麟

兄ちゃん、家にも仏壇買い戻そうよ。

漠

そうだな。船の進水式終わったら考えよう。

岡田

進水式か。漠、船出すそうだな。

漠

時子さんから聞いたね？そう！！もう俺たちはVHSのビデオテープじゃないよ。

岡田

やつとDVDになるか。そりやめでたいな。

麒麟

そういえば岡田さん、さつき帰って来るとき浜で見かけない人を見たよ。

漠

ああそうだ。一人は上半身裸でな、どうもサーフボーアらしい。

漠

を見たよ。

漠

ああそうだ。一人は上半身裸でな、どうもサーフボーアらしい。

とと サーフアーだろ？

漠 ま、国によつて色んな言い方があるわけよ。で、もう一人がうさぐさい

恰好しててな、幌馬車引つ張つてるんだ。

とと え？馬もいたの？

麒麟 いないない。

岡田 不動産屋がそんな恰好してるわけはないな。

漠 不動産屋？なんだいそりゃ？

時子 (顔を出し)二人も帰つてたんだ。ちようど良かった夕飯出来たから集合。

それぞれ食事をする場所へ移動する。

檻樓と、三度方丈の木杵を持った者たちが現れる。

声 『又同じころかとよ、おびただしく大地震振ること侍りき。』

声

『そのさま、世の常ならず。』

声

『山は崩れて河を埋み、海は傾かたぶきて陸地ろくじをひたせり。』

声

『土さけて水わきいで、巖いわおわれて谷にまろびいる。』

檻樓
声

『渚漕ぐ船は波にただよひ、道行く馬は足の立ちどをまどわす。』

家族を失い一人になってしまった子ども達は数知れず、彼等は天涯孤独の身の上をおぼろに知った。虚ろな目をする子、激しく体をよじり抵抗するように走る子、身も知らぬ大人相手に暴れる子、ここぞとばかりに嬌声を上げ笑い転げる子、みんな夜は泥のように眠った。忘却したかった。自分が生きていることも忘れたかった。津波で一瞬のうちに戸板が返り、地獄が目の前に襲ってきた。津波は酷薄で容赦ということをしなかった。

木杵を持つ者たち、子どもになる。

子ども 1

子ども 2

子ども 3

子ども 2

子ども 3

子ども 1

子ども 3

子ども 2

子ども 1

子ども 2

子ども 3

子ども 2

子ども 1

よく助かったって言われる。

奇跡だって言われる。

運が強い子だって言われる。

うんこが強い？

運！！

うん。

寒かった。

冷たかった、海の水。

凍えそうだった。

凍えてた。

手と足が棒のように突っ張って、

天井を指さしてた。

口は開けっ放し。

子ども2
口には泥がいつぱい入って、

子ども3
ヘドロもね、

子ども1
目も開いたまんま、

子ども2
怖い顔だった。

子ども3
苦しかったんだね。

子ども1
赤ちゃん、抱いたまんま、

子ども2
転がってた。

子ども3
そこら一面転がってた。

子ども1
寒いのに毛布もかけてもらえないの。

子ども2
腐るからってストーブもないから、

子ども3
花も凍ってた。

沈黙。

子ども 1

子ども 2

子ども 3

子ども 1

子ども 2

子ども 3

子ども 1

子ども 3

子ども 2

子ども 1

子ども 3

おらの父ちゃん、母ちゃん、妹、みんな見つかった。

おらはじいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、兄ちゃん。ばあちゃん、父ちゃんが行方不明だ。

(自慢するように)おらはな、ひいばあちゃん、じいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、おんちゃん、兄ちゃん二人に弟一人で九人だぞ。みんな見つかって土葬した。

すげ、

すげ、

すげべ。

…人数の問題でねえべ。

九人だぞ、おらしか残らなかった。

量より質だ。

何言ってるんだ？

どういう意味だ？

子ども2

子ども3

子ども1

子ども3

じいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、兄ちゃん!!

(対抗するように) ひいばあちゃん、じいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、おんちゃん、兄ちゃん二人に第一人だ。

(も、同じく) 父ちゃん、母ちゃん、妹、

おらの家が一番死んだ!!

次第に喧嘩のような言い合いになる。

しかし、それも最初だけで三人は寄り添うようになる。

檻樓、三人を抱き包む。

音楽。

漠と麒麟が映画館の前にいる。

漠

いいか麒麟、今日こそ暁丸復旧の最終工程を終わらせるぞ。

麒麟 　　そりやそうだよ、今日終わらせないと塗料も無くなる。
今日塗装を終わらせ、乾燥に二日。

麒麟 　　お空が曇れば三日、雨が降ったら四日か五日…、
天気次第だが、その間に暁丸の船底にコロを入れる。

麒麟 　　ああ、

早ければ明後日には進水式だ！！

麒麟 　　ああ、

なんだよ、浮かない返事だな。

麒麟 　　ああ、

シャンペーンがいるな。

麒麟 　　ええ？

盛大に祝賀会だ。

麒麟 　　ええ？

なんだよええ？って、

麒麟

漠

先立つものが、

先立つ不孝をお許し下さい。

麒麟

漠

先立つものがないんだよ。

先立つものって、ええ？もう無いのか？

麒麟

漠

あるわけないじゃんかよ。明後日の進水式の日まできちんと計画立てて家計をやりくりしてきたんだ。だからお天気次第で進水式が延びたりしたら家計は火の大車輪なんだよ。

えらい！！

麒麟

漠

なにが？

さすが商業高校はいつただけのことはある。お前、漁師なんかやめてオヒスレデエになった方がいいんじゃないか？

麒麟

漠

誰がそんなことやるか。

よし、わかった。盛大な進水式はやめて地味に行こう。岡田さんちにも内緒でやる。

とと

しつかり聞いた。

漠

あちゃー、

とと

(麒麟に) ねえ、内緒で進水式やらないでよ。約束したじゃないか、船に乗せてくれるんだろ？

麒麟

ああ、もちろん乗つけてやるよ。

とと

心配すんなよ。父ちゃんと母ちゃんがなんとかしてくれるって。

時子

なにをなんとかするって？

漠

おはよう。

時子

おはよう。

麒麟

おはようございます。

とと

暁丸進水式だつて!!

漠

あちゃー、

時子

ええ!? そうなの？

漠

ええ、まあなんとかかんとか。

時子 やったじゃない！！いつ、今日？明日？

麒麟 明後日です。

時子 盛大に進水祝賀会やんなきゃねえ。

とと 先立つ不孝なんだって。

時子 なにそれ？誰、漠死んじやうの？なんで、船が出来上がったのになんで死

ななきゃなんないの？不治の病を隠してた？

ええ実は、結膜炎で、

じゃなくて、

じゃなくて？

経済的事情。

時子 なんだ、先立つものってそれか。そんなこと心配してどうするの。今まで

みんなして助け合ってきたんじゃない。進水式のお祝いに立ち会うのは漠

と麒麟とわたしたち家族だけよ。豪華客船の進水式でもあるまいし、水く

さいよ！！

ト、登場した二人の人物。

男

確かにこの晧浜は水くさい。何故かと言えば防潮林、防砂林があつた津波ですべてなぎ倒され、海水の匂いなんの障壁もなくわたしたし達人間の鼻孔をストレートに刺激するからです。こんにちは、大関東不動産社長、石持岩男でございます。

女

名刺は昨日、仏壇背負つた殿方にお渡ししましたが、

時子

「ただだけ来る」の人？

石持

そうです。

時子

意味わかんない。

石持

壽賀子、

多分、秘書であろう壽賀子は大きなバッグの中から股を出す。

石持 股だけでも来られるんです。

とと バカッコノ！！

石持 (ムカツときて) その少年、今わたしのことをバカッコノと言ったな？

とと ああ、バカッコノって言った。

石持 二回言ったな！？

壽賀子 社長、ガキごときを相手にしている時間はありません。

石持 しかし壽賀子、これでは日本の道徳倫理はどん底じゃないか。大人にバツカというガキをのさばらせてはならないと思うんだがね。

この間に岡田登場。

岡田 なんの騒ぎだ？

時子 不動産屋、

岡田

「まただけ来る」か？

とと

股だけの人形持つてる。

岡田

バガツコノ、呑めツコノ。

壽賀子

(股をかざし)これよ。

岡田

悪いな、俺は目が悪いんだ。

壽賀子

心眼でご覧になったら？

岡田

あいにくそんな超能力は持つてない。

とと

見なくていいよ、あんなモノ。

石持

このガキヤ、わたくしの股ぐらをモノ扱いしたな？

壽賀子

(制し)社長、岡田英一さんです。

石持

(急に真顔になり)わたくし大関東不動産社長、石持岩男です。

岡田

こんな見捨てられた浜になんの用だい？

壽賀子

(漠、麒麟を気にして)ちよつと内密にお話したいことがあるんです。

時子

この二人は家族同然なの。

漠

(そうそうとうなずく)

麒麟

兄ちゃん、そろそろ仕事にかかんないと。

漠

あ？ああそうか、そうだな。

麒麟

今日中に塗装たろ？

漠

こっちの話も気になるが、

とと

母ちゃん、俺も手伝ってくる。

時子

行っておいで、お昼は届けるから。

三人、気にしながらも去る。

壽賀子

社長どうぞ。(促す)

石持

わたくし、あの大きな津波以来ともに海を見ることができなくなりましてね。潮騒の音も風に乗ってくる生臭い汐の香りもすべてがわたくしの足をすくませる。それと同時に海への憤懣やるかたない感情もあります。

壽賀子

社長はこの前のことで海浜別荘計画地全てを流されました。

石持

街場に持っていたせこいアパートや古めかしいマンション経営でつないで

きましてね、

壽賀子

残った社員はわたしだけ。

石持

残ってくれとも言わなかったが、

壽賀子

残ってしまったなしくずしのわたし。

石持

しかし、壽賀子、君がいてくれなかったらと、今では感謝の気持ちでいっ

ぱいだ。

時子

そんな話を聞かせたくて人払いしたの？

岡田

なんでこの浜に来たんだ？

壽賀子

社長。

石持

もちろんビジネスのためです。この晝浜一帯の土地を買いだいです。特にこのあたりを。

岡田

あんた、海が怖いんだろ？ 憤りもあるんだろ？ なんでそんな人が海のそば

の土地を買いだいたいんだ？

二東三文の安い土地だからですよ。

それを高く売る。

売るつもりもないんです。

どういうこと？

ここで何か始めるつもりなのか？

そうしたいと考えています。

何か始めるって、海水浴場、海の家？

この浜に住んでいた方々が手放し、自治体がい上げた土地は国からも見放された状態です。誰もいなくなってしまった浜辺には津波防災も必要ない。そんな捨てられ二東三文の価値しか無くなってしまったこの土地をわたくしが買います。財政が逼迫している地方自治体は二東三文の土地が売れるんだから双手を上げて喜びましたよ。しかし、クリアしなければならぬ問題がひとつあります。

石持
岡田
石持
時子
岡田
石持
時子
石持

岡田

時子

壽賀子

時子

石持

岡田

石持

岡田

壽賀子

時子

岡田

時子

ここを手放さない俺たちがいるからな。

漠と麒麟もそうよ。

あの兄妹は親から相続も受けていないし、手続きさえしていません。問題外です。

親もみんな津波に呑まれたのよ。相続なんて出来るわけじゃない。

岡田さん、この元映画館の土地を売っていただけませんか？

売る気はない。

暁町がこの浜一帯を買い上げた金額よりもっと上積みしますが。

売る気はない。

他の土地へ移って家を建てるくらいのお金を用意していますのに。息子さんを学校に通わせることも出来ますよ。

ほんとう？

時子、なびいてるか？

それはなびくわ。

壽賀子

時子

いい話でしょう？

いい話過ぎるような気がするけど。

岡田

石持さん、俺はこの土地を売る気はないが、聞きたいことがある。

石持

なんなりと。

岡田

他にも浜辺の土地を買い占めているのか？

石持

いいえ、この晝浜だけです。

岡田

なぜ晝浜なんだ？

石持

岡田さんはなぜ晝浜に住み続けているんですか？

岡田

まず俺の質問に答えてくれよ。

石持

たぶん、わたくしの答えは岡田さんと同じですよ。

岡田

なに？

石持

勘ですがね、わたくしがこの晝浜にこだわる理由は、ここに約束の場所を

岡田

感じたからです。

岡田

約束の場所？

時子

聖書の「乳と蜜の流れる場所」ね、

石持

自分の生涯をかけた拘りは、それは既に過去において決まっていたんじゃないでしょうか？

岡田

もしそうだったとして、海を怖れるあんたの約束の場所が海辺というのはおかしいじゃないか。

石持

怖れる場所に魅かれてしまった。

岡田

人間には自分の思いと逆に向かう不可思議な性質がある。

石持

さすが多くの映画を見てきた人だ。

岡田

映画はフィクションだが、生の人間の博覧会だ。

石持

不可思議な性質を持つ博覧会の住人がわたくしです。そして岡田さん、あなたもそうだ。光りある世界ではなく闇の世界に約束の場所を見つけた。

岡田

あの日以来、実際俺は闇の世界に生きている。

石持

自分のおもむくままの世界と実際の見える世界が一緒になったんだから言うことなしだ。しかし、奥さんと子どもさんはどうでしょう？あなた達の超

個人的な道行きにつきあわされている。

岡田

納得すくた。

石持

そうですね？奥さん、

時子

そんなこと急に言われたって、

壽賀子の持つ携帯電話が鳴る。

壽賀子

はい。社長、小桜さんです。

石持

(受け取り) よおよお、こ・くさい興行の小桜くんか、え、なに？もう来てるの？早いね。ん？伝説のサーファーも一緒？なんだそりや？わかった、それじゃこつち向かってくれ。ああ、元映画館、建物はそれしかないからすぐわかる。(切る)

壽賀子

伝説のサーファーですか？

石持

ビッグ下だか上だかって言ってた。

壽賀子

石持

壽賀子

石持

壽賀子

石持

壽賀子

石持

壽賀子

石持

壽賀子

石持

壽賀子

キヤー！！

どうしたんだ、壽賀子。

湘南では、

しようなん？

サーフアーキングと呼ばれ、ワイキキでは、

ワイハか？

アメリカンチャンピオンシップを戦い、仙台港ビーチでは、

仙台？

伊達サーフ隊を率いた伝説のサーファーです！！

壽賀子、サーフィンやってた？

はい、こっそりと。

知らなかったな、

だからこそこっそり、じぶんちのお風呂で。

こつそり小節が登場し、壽賀子を横切って行ったので壽賀子には仏壇が歩いていったように見える。

壽賀子

キャ!!

小節

(岡田夫婦に) ただいま戻りました。

時子

あら?もう昼?

小節

(空を見て) 太陽が真上にありますから昼です。

時子

ととたちに弁当持つて行かなきゃ。

時子、はける。

小節、ビッグ宇江が荷車を引いてやつてくる。

小桜

石持社長

石持

よおよお、来たね来たね、こんな東北のさいはてまで。

壽賀子

石持

ビッグ

小桜

壽賀子

ビッグ

小桜

ビッグ

壽賀子

(ビッグを見て腰抜かす) ビッグ……、

(ビッグに) あんたが伝説のサーファー、ビッグ下か？

(わからないという風に)

ちよつと記憶を無くしててね、自分のことが思い出せないんだ。

あなたはビッグ宇江よん!!!

(壽賀子を見る)

ほらビッグ、あんたを知る者がここにいる。

(壽賀子に寄り) 俺はビッグ宇江なのか？

あなたは紛う方なきビッグ宇江。

小桜の引いてきた荷車を何気なく見ている小節。

幌の中を見ながら後ずさる。

カイコーが出てくる。

カイコーの足にはロープがつながっているので逃げられないようになって

小節

ている。
なんだ!?

石持と壽賀子も驚く。

小桜

カイコーだよ!!

石持

こいつがカイコーか、

小桜

これを社長に見せたかったのさ。

石持

(薄笑いして)これが半魚人だつて? インチキっぽいなあ、

小桜

だからいいんじゃないですか、

カイコー、何か手に持っているものを小節に差し出そうとしている。

カイコー

ウミノソコ、アオキフカキウミノソコ、ニマンヒロ(尋)フカク、コレヲ、

小節

(そろそろと受け取り)
それは何かの骨だった。

小節

骨、

カイコー

(首をかしげる)「アナタノデハナイノカ？」

小節

わたしの、家族の、骨？

カイコー

(曖昧)

小節

(小さい骨を見つめる)

ト、その時壽賀子がその骨を奪い、

壽賀子

(骨を) こいつは豚か牛の骨だろ！？どこで拾ったんだが知らないが、よくもこんなモノ持ってきたな。お前の顔見ると虫酸が走る。怖気と氣持悪さで吐き気がする！！消えろ！！(骨をカイコーに投げつけ、自分も力

イコーに向かって行こうとする)

おい、壽賀子どうしたんだ？

これがカイコー効果さ。

カイコー効果？

小節とビッグが壽賀子の前に立ちはだかる。

小節 やめてけろ。

壽賀子 どけ、仏壇野郎！！

ビッグ なにをそんなにいきり立ってるんだ？

壽賀子 いきり立ってなんかおりませんわ。

小節 いや立ってる。

壽賀子 仏壇野郎はいきり立たないのか？どうやら仏壇野郎はふにやまら野郎でもあるらしいな。

小節

壽賀子

小節

壽賀子

石持

小桜

壽賀子

ふにやまら野郎でもなんでもいいが、カイコーに手を出すな。
ほう！！仏壇野郎もそっちの味方か。

そっちの味方？

そいつがあの大地震と大津波の後に人間を駄目にした張本人なんだよ！！
おいおいおい、壽賀子どうしたんだ？

(ニヤニヤしている)

今まで闇に葬られてきた社会のあらゆる歪みをこいつが全部白日のもとに
曝けだしたんだ。石持、お前はこいつを見てなにか思い出さないか？海の
そばの土地を全て津波に持って行かれた後、こいつそっくりの表情をした
人間達が町に溢れ、誰彼構わずねだりにねだって物乞いをした。それを見
た中学生のわたしは絶望したよ。人間はこうも誇りを、自尊心をかなぐり
捨てられるんだと思つたよ。その光景は人間の仮面を被つた猿だった。そ
いつがしばらくぶりにここに現れたんだ。あの時、あの人間達にやれな
かったことを今ここでこいつにやってやる！！

小節 やめろ。

壽賀子 殺しはしない、殴らせろ！！

小節 駄目だ。

壽賀子 仏壇野郎はこいつの親か？子どもか？

小節 わたしはカイコーの仲間、かもしれない。

壽賀子 じゃあ仏壇野郎も一緒に殴ってやる！！

ビッグ やめろ。

壽賀子 はい、(素直)

小桜 (カイコーに) さあ、戻るんだ。

小桜はカイコーを荷車に戻す。

壽賀子、へなへなと膝を崩す。

石持 壽賀子、大丈夫か？

壽賀子
(震えている)

ビッグ
大丈夫か？

壽賀子
はい。

小桜
さあ、社長、

石持
いやなにがなんだかさっぱりわからんよ。

小桜
宿でじっくり説明しますよ。

ビッグ、壽賀子を立たせる。

石持

岡田さん、それじゃ。次は交渉のテーブルを用意してきます。

岡田
無駄だ。俺はここを売らない。

一同去る。

小節

(拾った骨を抱きしめる)

音楽。

暗転。

溶明の中に檻樓が浮かぶ。

檻樓

春は沈黙していた。町を軽々と押しつぶし、なぎ倒すときの轟音の残響がまだ耳に残っている。その後に来たのは静寂だった。鼓膜が轟音で破裂したのかと思つたよ。でも違った、人も自然も沈黙していたんだ。

多くの人々は押し黙って避難所に入り、沈黙のままに配給の食糧を待ち、スーパーの店先に並び、ガソリンの給油を待った。町は沈黙していた。

瓦礫の山の中から一切生きた声はなく、町は不条理にねじ曲がり、不条理な沈黙に覆われていた。

空にはへり、陸には消防車と救急車のサイレンの音が静寂を一層際立たせ

た。

沈黙の放射線が誰もいなくなった大地に降り注ぎ、沈黙する人々は時折、政府高官や電力会社社員に雄叫びを上げたが、多くの人々は沈黙していた。沈黙がわたしらの言葉だったのだろうか？

全国から派遣されてきた自衛官や消防隊員、警察官もただただ沈黙のままにその作業を粛々と進めた。

テレビでその姿を見たのであろう外国の人々はその姿を賞賛したが、それは東北人が古代から強いられた忍耐と忍従の刻印が身体の奥の奥から現れ出ただけなのさ。誰も好んで沈黙をしていたわけじゃない。美しくも残酷な沈黙だった。

残酷な沈黙の春だった。

まだ春で良かった。桜咲く春の始まりで良かった。

漠と麒麟と、ととがやってくる。

とと

ととが檻樓の前で止まる。
木がある。

麒麟

桜の木だね。

漠

あれ？あっちの桜は、（前方を見て）ある。ここは一面まっさらだったからな、

とと

（前方の桜を）見てよ、桜が咲き始めた。

麒麟

本当だ、

今年もあの桜の木の下で花見だな。

麒麟

あと、一週間くらいだね。

漠

船ももう出来上がる。

麒麟

いい花見になりそうだ。

檻樓

良かったな二人とも、

三人後ろから声をかけられたのでびっくりする。

とと

うわ、誰？

麒麟

…桜、(どこ行ったの?)

漠

誰だよ、この婆さん、

檻樓

婆さんじゃない。

漠

どう見ても婆さんだろうが、

麒麟

いいじゃない、婆さんだろうがギャルだろうが、

漠

ギャルがいいに決まってるべ。

檻樓

(漠に向けてまじないを) おんによるおんによる、

漠

(けつたいな踊りを始める)

麒麟

(びっくりし、檻樓に) ちよ、ちよつと、

檻樓

(まじないをやめる)

漠

なんだ？なにがあつた？

とと

(檻樓に) なにをしたの？

麒麟 あの、どなたですか？

とと そう、誰？

檻樓 昔、この浜に住んでたことがある。

三人 ええ？

麒麟 あたしの祖父ちゃんの代ですか？

漠 ほれ、やっぱり婆さんじゃないかよ。

檻樓 (まじないをかけようと) おん、

漠 (麒麟の後ろに隠れる)

檻樓 もっと前だなあ、

麒麟 じゃあひい祖父ちゃん？

檻樓 ま、そこら辺はどうでもいい。とにかく昔だ。

麒麟 ここに桜の木があっただけ、

檻樓 ここに？

とと そうだ！桜の木が無くなってる。

檻樓

麒麟

檻樓

漠

麒麟

檻樓

漠

とと

麒麟

檻樓

漠

檻樓

漠

とと

桜の木はあの一本を残してみんな海に持って行かれただろうが。そうだよな？

海の底では魚たちが花見してるだろうな。

なに呑気なこと言ってるんだよ婆さんは、

うるさいよ、婆さん婆さんって、

そうだ、お前は婆さんにトラウマでもあるのか？

虎と馬のハーフがいるのか？

えー？

すいません、バカで。

海でしか暮らせないな。

そりゃあ海の男をバカにしてるんじゃないの？

バカにしてるんだよ。

あ、そうですか。

素直だね、漠。

檻樓

麒麟

檻樓

漠

麒麟

漠

麒麟

漠

檻樓

漠

麒麟

檻樓

とと

よく船を改修したな、

これで心おきなく自分たちの漁が出来る。

この浜で死んだ漁師みんな喜んでるよ。

なんか、そうだよ。船の改修してる時、誰かに肩を叩かれてるような気がしたもんな。

それはあたし。

いや確かに麒麟にもしつかりせえよと肩叩かれたけどさ、

兄ちゃんも、それを感じてたんだ。

あつたり前よ。第三暁丸は俺たち二人だけの力で出来上がったんじゃない。

お前もわかつてるんじゃないか。

バカのふりしてるんです。

第三暁丸の改修のことを知ってるって、じゃあ前からこの浜に来てたの？

だから、わたしは昔この浜にいたって言っただろうが、

じゃあ俺の父ちゃんも母ちゃんも知ってる？

檻樓

映画館やつてる岡田さんだろ？

とと

うん。

檻樓

岡田劇場は昔からお客はいなかった。台風やおおしけがきて漁師が休むときと、子ども達の春休み、夏休み、冬休みにかかるマンガ映画の時だけは賑わってた。今は巡回映画をやってるんだろ？

とと

ああ、映写機は大丈夫だったからそれを使って色んな所を回ってる。

檻樓

わたしも岡田劇場で見たことがあるよ。

とと

へえ。

檻樓

昔々のフランス映画だったな。題名は…、忘れてしまった。劇場の話だ。二階三階席までお客が鈴なりの場面があったな。

とと

「天井桟敷の人々」だ！！監督マルセル・カルネ、1944年フランス映画。父ちゃんの一番好きな映画だよ。

檻樓

そうかい、

麒麟

じゃあうちの父ちゃんや母ちゃんも知ってるの？

檻樓

もちろんさ、あんたの両親は変わり者だったな。漁師なのに息子には漠な

んで砂漠を思い出させる名を付け、娘は麒麟だ。

そうなんだよ。ストレートにさざえとかかつおとかつくりやいいのによお。

檻樓

でも、愛情は人一倍あったらう？

麒麟

…あたし小学三年生だった、

檻樓

子どもでわからなかったかい？

麒麟

そんなことはない。

漠

ってことは婆さんはかなりの婆さんだな。

檻樓

ああ、かなりの婆さんだ。お前さんにとってそれがなにか問題あるか？

漠

…特にない。

檻樓

だろ？

漠

いや特にある。

檻樓

なんだ？

漠

何歳なんだい？

檻樓

あの桜と同じくらいかな、

麒麟

母ちゃんはあの桜並木は、つて今は一本しかないけど、百二十年も前の木だつて言つてたことがある。

とと

ええ？そんなに？

麒麟

明治時代にも大津波が来てその時流れついた桜の木が奇跡的にあんないっぱい桜並木になった。暁の人たちみんなあの桜は津波に呑まれた人たち

とと

の生まれ変わりだと信じて疑わなかつたつて。

漠

それ、俺も母ちゃんから聞いたなあ。
じゃあ婆さんは百二十歳なのか！？昔のこのことを、（もつと聞かせてくれよ）

檻樓は消えていた。

とと

あれ、いなくなつた。

漠

素早いな、くのいちかよ。

麒麟

(前方の桜を見る) あの人、桜？

とと

さくら？

漠

桜が喋るわけねえだろう、そりゃ麒麟錯乱してるぞ。

スクリーンに満開の桜が映る。

麒麟

桜、一本残って良かった。

漠

ああ、

とと

お花見絶対しようね。

麒麟

まだ春で良かった。桜咲く春の始まりで良かった。

麒麟、合掌する。

漠と、ととも同じく合掌。

暗転。

方丈の木杵を持った者たち。

声 声
復興は遅々として進まなかった。
わざと遅らせているとしか思えないこともあった。

声
暁浜のようなごく小さい港、山間の細々とした農地、限界集落的過疎地を

津波はものの見事に破壊し尽くした。

声
しかし、政府も政治もなにもしなかった。これを機に厄介払いをしたとしか思えなかった。

声
無駄に時間を浪費し、そこに住んでいた人々、多くは老人だったが。

声
老人たちは疲弊した。

声
村落は消えた。

声
人々も消えた。

声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

リアスの東北の海岸は虫に食われたように地図から消えた。
漁船が消えた。

養殖棚が消えた。

ローカル単線鉄道が消えた。

海のそばを縫うように通る道路も消えた。

トンネルが消えた。

砂浜が消えた。

残ったのはおびただしい文明の残滓。

瓦礫の山。

瓦礫の処理を引き受ける自治体はわずかだった。

東北の瓦礫には放射能がまとわりついているという風評。

という風評の風評。

風評には尾ひれがついて何が本当のことなのかわからなくなった。

いずれその地域の原子力発電所が爆発することがあつたら因果応報だとい

声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声 声

うのに。

人間は扶助しないことがわかった。

扶助できない物はそこにとどめ置くしかない。

と、政府が言ったという風評。

予算もないし、

と、金庫番が言ったという風評。

でも、これ本当のこと。

だから十年経った今でも瓦礫の山はその場にとどまり続けている。

処理の引き受け手のない文明の残滓。

津波の時まで一緒に生活していたのに、

残滓の怨念残る。

瓦礫の嘲笑。

瓦礫の復讐。

瓦礫の哄笑。

唱和 声

瓦礫の威風堂々。

このまま、我が世の春を謳歌せよ。

クロス去る。

石持、小桜、そしてカイコーを乗せた荷車。

石持 すごいじゃないか！！

小桜 は？

石持 カイコーだよ。

小桜 お眼鏡にかなったようすな。

石持 どこで見つけたんだね、一体。

小桜 さもないさびれた寒い海岸ですよ。

石持 金の卵はさもないところに転がっているんだねえ。

小桜 その転がり先がどこかを推理するのが一流の興行師たるミーの才能ですな
まずあのような生物が棲息しているという確信を持つに至る長年の研究調
査。

石持 以外と学者肌なんだね。

小桜 十年前の大震災後、太平洋側のプレートが大きく沈下したり歪んだり、あ
の謎の深海魚ほれまおが上がった段階で、ミーは未確認生物が絶対出現す
るといふ確信を抱いたのです。

石持 それが半魚人カイコーだった。

小桜 まさか半魚人が現れるとはミーも考えちゃいませんでしたが。

石持 壽賀子の異常な感情の揺れはただごとじゃない。あれをカイコー効果と呼
ぶならわたくしのプランは大成功間違い無しだ。

小桜 社長の秘書だけじゃなく、色々な人間がカイコーを見てあのようなことに
なります。

石持 ほほう、でもね、

でもね？

君は壽賀子のようになるのかい？

なりませんな。

何故わたくしは壽賀子のようにならないんだ？

ええ、ええ、ええ、それはそうなんです。

何故だ？

さあ、

君は長年研究調査に励んできたんだろ？

そこまでまだ手がまわりません。

カイコーを見た人間が全員壽賀子のようにならなければ不完全だな。

シヨーは不完全だから人の関心を引くのです。失敗するかもしれないハラドキドキがあるから人は怖い物見たさで寄ってくる。

シヨージやないんだよ、怖い物見たさじゃないんだよ、わたくし、石持岩男が目論むテーマパークは臭い物に蓋をして見ないふりしてきたこの国の

市民とかいう人間たちの本性をあぶり出し、臭い物に石をぶつけるテーマパークなんだ。

小桜
ではカイコーはうつつつけた。秘書殿のあの感情の激震は多分本性ですからぬ。

石持
十年前の地震と津波で東北の地は傷つき人心は荒廃した。しかし、この荒れ果てすさんだ心を東北人はかみしめ、心の奥にしまおうとした。自らの被虐の出自さえ心の奥にしまった。そして野垂れ死にした東北人がどれだけいただろう？東北以外の人々はいっしょか東北であった震災のことを忘却し、惨状に蓋をして浮世の寝物語のようにたまたまに思い出すようになった。東北人はこのことをしまっておくべきではない。このような世の中に憎しみの火を放つべきだ。そのマッチの役目を果たすのがカイコーなんだよ。逆に見て見ぬふりをしてきた人間は自分たちの罪業を知ることになる。そして、我が身の勝手さに恥じ入り…、恥じ入るかな？

石持
そんな素直な人間はいないよ。臭い物にもっと重くて大きな蓋を用意する

だろう。

じゃあカイコーよりもっとグレードアップしたフリースクスを用意しなきゃあ。

石持 龍だな。あの地震の時に日本海溝から天空へ飛翔したというドラゴンを見つけてくれ。

小桜 社長、そんな憎しみのテーマパークをこの東北に作つてなにが楽しいんですか？そして、津波でやられたこんな名もない寂れた土地に観光客がやってきますか？

石持 癒しのテーマパークの方がいいかな？

小桜 そこまであざとくなくても、

石持 小桜さん、ここはねわたくしの約束の土地なんだよ。

小桜 誰かと約束したと？

石持 そう、わたくしの片割れとの約束だ。

小桜 片割れとの約束？またロマンティックなことをいいますな。それは興行師

の台詞だ。

石持

わたくしの片割れは夢の海浜別荘計画を立ち上げたロマンスグレーの紳士だよ。しかし、津波はそのロマンの全てを海の底へ持ち去った。わたくしは一夜にして地獄に墜ちた。その憐れなロマンの紳士と約束した。次はヌーヴオーロマンだ。

小桜

またアナクロな。

石持

夢を別な形で再現する。それが憎しみのテーマパークだよ。それが片割れとの約束だ。

カイコーが意味不明の言葉を発する。

小桜

見ますか？

石持

よく見てみよう。

小桜、荷車の中からロープで縛られたカイコーを出す。
石持、怖い物見たさでカイコーの前に立つ。

カイコー

(石持を見つめる)

石持

(釘付けになる)

音楽。

カイコー

(石持へ手を伸ばす)

石持

(後ずさる)

カイコー

フカキウミノソコスベテミナソコヘカエルトキガクル。

石持

(頷く)

カイコー

ソレマデノウタカタ、ニクシミイツクシミ、フカキウミノソコニハナニモ

ナイ。

石持

(大きく頷く)

「壽賀子の笑い声が聞こえる。」

小桜

まずい。

小桜、カイコーを幌の中に隠す。

壽賀子とビッグ登場。

ビッグ

(小桜に) 俺はビッグ宇江なようだ。

小桜

だから前から言ってるだろうが、

ビッグ

後ろから言ってくればすぐわかったかもしれない。

壽賀子

ステキ、そのレスポンス。

ビッグ

ポン酢は大好きだ。

壽賀子

べったり。(抱きつく)

ビッグ やめたまへ。

壽賀子 まあ、硬派。

小桜 いつまで無駄な時間を過ごしている？卸町から仙台駅行きのバスの時間がなくなるぞ。

壽賀子 もうないわよ。

小桜 あんたがビッグ宇江なのかそうでないのかは、そのボードを持って海に入ればすぐさまわかるはずだ。

壽賀子、君もそう言ってくれたね。

早く波頭で荒波をいなす勇姿を見せてちょうだい。

小桜 そうだ、やれやれ。

ビッグ しかし、

小桜 しかし？

ビッグ 下から読んでも「しかし」、

小桜 回文はもういい。

ビッグ

壽賀子

ビッグ

壽賀子

ビッグ

小桜

壽賀子

小桜

壽賀子

ビッグ

小桜

壽賀子

(海を見て) 波がない。

(も見て笑う)

どうしたんだ？ 壽賀子、

わたしはどこでサーフィンをやったと思うんですの？ お風呂ですよ、お風呂。 FOTO システムバスの、こ狭いお風呂。え？

こんくらいのか？ (と、大きさを示し)

こんくらいです！！

幼児用バスタブじゃないか。

それにサーフボードを浮かべて、

信じられない！！

まるで米粒に般若心経を書くようなものだ。 君君君、 壽賀子君。 君もミー

の一座に入らないかあ？

(全然聞いてない) パドルでゲットアウト、プッシングスルーでテイクオ

ビッグ

壽賀子

ビッグ

壽賀子

小桜

石持

ビッグ

壽賀子

ビッグ

壽賀子

小桜

フ。(うつぶせで手で漕いで進み沖に出る。ボードと体の間に波を通して立ち上がり波に乗る。)目の前に広がる太平洋は銭湯の書き割りじゃござんせん。ものほんの太平洋。お風呂の波など、比じゃありませんわ。確かに比じゃない。

絶対波を自分のものにするはずです。

わかった、やってみよう。

ビッグ!!

(石持に) どうしたの?急に省エネになって。

……。

(ボードを頭の上に載せる)

違いわビッグ。ボードはそこじゃない。

(足の下に置く)

そう、でもそれじゃ海に入れない。パドルでゲットアウトよ!!

そうだ、サドルでケツ割れたよ!!

ビッグ

小桜

Oh!!

わかってんのか？

ビッグ、ボードを小脇に抱えスタスタと海へ向かった。
見つめる壽賀子と小桜。

石持

(急に) 映画館跡はあのままでいいんだ!! 壽賀子行くぞ!!

石持、急に行動を起こし、早々といなくなる。

壽賀子

(石持を気にしながらも) 社長、股をお忘れです。ああ、ビッグ、ああ、社長、二股に裂かれるわたし。ええい、だったらこっちの股が邪魔!! (ト、股の入ったバッグを石持の去った方向へぶん投げ、海の方を見て) ああ、ビッグがちぎれるくらい両手を振ってるわ。お茶目ねえ。

小桜

(声だけ) 溺れてるんだ!!!

壽賀子

わたしの二股愛の泥沼に溺れたの？

小桜

バーカ、海に溺れてるんだ。

壽賀子

ええ!?

小桜

見ればわかるだろうが、

壽賀子

聞いてわかったわ!!!

小桜、壽賀子海へ向かう。

小節が一膳のさい箸を持ち、砂浜に目を凝らしながらやってくる。
何物かをつまみ上げそれを捨て、

小節

わたしは一体なにを捜しているのだろうか？たまにわからなくなることもある。さつきからずっと歩きながら見続けてきたのは砂浜の砂だ。砂を捜

しているわけではないのに、この数千億以上天文学的であろう砂粒の一粒一粒に目を凝らしてしまう。この砂粒に紛れて骨の欠片があるかもしれないと思っていたことも確かにあった。しかし、いまやわたしはこの砂浜が宇宙に浮かぶ星屑のようにも見える。あのような巨大な津波が押し寄せてもこの地上から失せないこの砂はいったい何ものなのだ？

わたしは家族の骨を捜しているはずだ。バラバラに崩れひきちぎられたであろう骨の欠片を捜しているはずなのだ。しかし、気持はそぞろに揺れ動く。もう捜さなくてもいい、と思い切れない。

あの日、浪板の浜に突如襲来した彼岸からの波の塊がもう一度わたしの元にだけやってくれば全てを終わりに出来る。わたしも家族と同様に骨の欠片になれるのだ。(袋の中からカイコーから受け取った骨を出す)これを供養すれば自ら終わりに出来るだろうか、

荷車からカイコーが出てきていた。

小節、それに気づく。

小節

カイコー、

カイコー

(まわりを気にしている様子)

小節

(も同じくまわりを見る)

カイコー

イナイカ、

小節

イカが好きなのか。イカ美味しいよな。さっと炙ったやつなんか最高だ。

カイコー

(否定を込めて首を振る)

小節

違うのか？

カイコー

オヤジ、

小節

おやじ？

カイコー

(小桜の真似をする)

小節

ああ、小桜とかいう人か、

カイコー

(頷く)

小節

この辺にはいないようだ。

カイコー
（繋がれている足を出す）コレヲハズシテ、

小節
え？

カイコー
ハズシテ、

小節
逃げるのか？

カイコー
（頷く）

小節
逃げるって、（海の方を見つめる）

カイコー
モウウミノソコニカエルトコロハナイケレド、

小節
故郷はもうないのか？

カイコー
カイテイフカイトコロ、コワレ、クズレモトノスガタデハナイ、

地震で海底もそうなってしまったのか、

カイコー
アトカタモナイ、

故郷を喪失した。わたしと同じだ。どこに帰る？

カイコー
デラシネ、

小節
デラシネ、そんな言葉も覚えたのか、

カイコー

コザクラノキマリコトバ、

小節

あの人もさすらいの根無し草なのか、

カイコー

ハヤクハズシテ、

小節、カイコーの足を縛り付ける縄を外そうとする。

その時、小桜が戻って来ていた。

ビッグは溺れたらしく蒼白で壽賀子におぶわれている。

小桜

なにやっつてんだ？仏壇屋。

カイコーを見た壽賀子は再び感情の昂ぶりに襲われ、背負っていたビッグを振り落とす。

壽賀子

化け物！！

小桜

(カイコーに飛びかかろうとする壽賀子をポケットに忍ばせていた。ピストルで撃つ) バアーン!!

壽賀子

(倒れる)

小桜

峰撃ちだ。大事な商売道具に傷をつけられたんじやかなわな。カイコー、ハウス!!!

カイコー

(首を横に振る)

小桜

ほほう、ミーの言うことを聞かないっていうのか?

カイコー

ウミへカエシテ、

小桜

お前の減価償却はこれからだ。

カイコー

ゲンカシヨウキヤク?

小桜

今までどれだけお前に金をかけてきてると思う? 儲けるのはこれからなんだ。

小節

海へ帰してやったらどうだ? カイコーは疲れ切っている。

小桜

(小節にピストルを向け) カイコーから離れる。

小節
小桜

(カイコーの縄をはずそうとする)
この野郎！！

小桜、小節の頭をピストルの銃床で殴る。

倒れる小節。

小桜、カイコーを無理矢理荷車に乗せようとする。

カイコー

イヤダ、

小桜

痛い目を見るぞ。

カイコー

イタイメラミテモイイカラ、ウミヘカエシテ、

小桜

痛い目にあわせても海へは帰さない。お前は金のなる木だ。さあ、乗れ！！

鞭を鳴らす。

カイコー

小桜

ブテ、ソレデブテ、
くそ、これでぶつたら商品価値がさがつちまうだろうが！！（ラジカセで音楽を鳴らす）さあ、これでどうだ？お前に踊り心というものがあるかどうかはわからないが、思わず体をくねらせてしまうミュージックだ。これに乗ってさあハウスへお帰り！！

しかし、カイコーは動かない。というより踊りたい衝動を堪えているようにも見える。

小桜

どうしたんだ？カイコー、

そのうち、気を失っていた三人が一斉に我に返る。

そして、この音楽に乗ったのは壽賀子だった。

壽賀子、妙な動きをしながらカイコーに寄っていく。

小桜
ミーのタレントに手を出すんじゃない。

小桜、壽賀子を止めようとするが、逆に吹っ飛ばされてしまう。
壽賀子はカイコーを繋いでいる縄を外そうとする。

小桜
何をする!?

壽賀子
お前はわたしの奴隷になるんだ。毎日毎日お前をいたぶってやる。それが
化け物の宿命だ。

小桜
ビッグ、壽賀子を止めてくれ。言うことを聞くのはあんただけだ。

ビッグ
ええ?

小桜
ええ?じゃない。「ええ」(肯定)だ。

壽賀子
ほどけない!!!

ビッグ
壽賀子、あきらめたらどうだ?

壽賀子

小桜

ビッグ

壽賀子

ビッグ

小桜

壽賀子

ビッグ

壽賀子

ビッグ

壽賀子

ビッグ

壽賀子

(言うことを聞かず縄を外そうとする)

リ。ピートだ。

壽賀子、あきらめたらどうだ？

わたしがあきらめたのはビッグ、あんたよ。

ええ。(肯定)

バカ、今度こそ「ええ？」だろうが。

あんなへっぴり波にも乗れないどころか、溺れてしまうなんて、あんたは

ビッグ宇江じゃない。

じゃあ俺は誰だ？

知らないわよ。それよりこの縄をほどいて。

肌がぬめぬめしていて気持ち悪い。

魚だと思えば大丈夫よ。

俺はサバ嫌いなんだ。

あんたがビッグじゃない確信がまたひとつ増えた。魚嫌いのサーファーな

ビッグ
んていないわ。
そうなのか、

壽賀子

さあ、でも、あんたは海の属性すべてを忌み嫌っているんだわ。

小節

(壽賀子に近づき) わたしが手伝ってやろう。

小桜

おい、仏壇野郎やめろ!!

カイコーの縄が外れる。

小節

カイコー、行くんだ遙か深い海の底へ!!

壽賀子

クソ!!

壽賀子、カイコーに取りすがろうとする。

小節、壽賀子を押さえる。

壽賀子

離せ、仏壇野郎!!

カイコー、音楽に乗ってゆつくりゆつくり海の方へ向かう。

小桜、ラジカセを止める。

小桜

カイコー、そこまでだ!!

カイコー

(動きが止まる)

小桜

溺れるぞ。

壽賀子

溺れる?半魚人が溺れる?

小節

どういうことですか?

小桜

(見え見えの嘘を) 暫く海に入っていないからだ。

ビッグ

だって半魚人だろ?

小桜

あんただってプロのサーファーだったろうが、

ビッグ

カイコー、行け。海へ入ってみろよ。そうすればわかる。

小桜

余計な事を言うんじゃない。

カイコー

(海へヨタヨタと向かう)

小桜

(追いかける)

壽賀子

(嘲笑して) 化け物、波にもまれて苦しそうだ。

小節

カイコー!!

壽賀子を残し、三人は海へ向かった。

壽賀子

つまらねえ、(急に思い出し) 社長、社長、股をお忘れです。

壽賀子、去る。

檻樓が現れる。

檻樓

誰かが、何物かが犠牲にならなければ收拾がつかない深い傷痕が残った。

その傷痕は誰の目にも見えず、誰も気づかなかつた。人は気づかないうちに多くの過ちを犯す。無意識という潜在的な意識の波打ち際で、打ち上げられたイルカのように人は息絶える。無意識は目に見えぬ怪物を創り上げ、それを強烈に信じざる者が押し黙る者たちを凌駕したときこの地域は不可食領域になった。触ると祟りと穢れがあると云われた土地、それがわたしらが営々と築き住まい続けてきた蝦夷の地、東北だ。

カイコーが一人登場する。

檻樓

カイコー

檻樓

カイコー

あんたさんはどこからやってきたんだい？

ウミノソコ ハルカフカイウミノソコ、

海は広い。どこの海だい？

ニホンカイコウ、

檻樓

あんな深い海の底からやってきたのか。では泳ぎは達人なはずだわな。

カイコー

(曖昧) シニソウ、

檻樓

そう、今、生の波と死の波が往ったり来たりしている。

カイコー

(曖昧)

本当はどこから来たのかわからないんだろ？

カイコー

(頷く)

あんたさんも大きな傷痕を持った犠牲者の一人だ。

カイコー

ギセイシヤ？

あんたさんは半魚人じゃない。れっきとした人間だよ。

波の音。

カイコー、ふらつと倒れる。

檻樓、去る。

漠、麒麟、ととが登場。

とと

(倒れているカイコーを見つける) ねえ、誰か倒れてるよ。(近寄ろうとする)

麒麟

(制し) ちよつと待って。

とと

ええ？

麒麟

なんか変なかつこうしてる。

漠

そりゃそうだが、溺れて打ち上がったんじゃないのか？生きてるかも知れないぞ。

とと

そうだよ、助けないと。

漠、ととはカイコーに恐る恐る近づいていく。

とと

エイリアンかな？

漠

絵入りのあんこってなんだよ？

とと あんこに絵を入れてどうすんだよ。

漠 だろ？

とと 漠、(行つてよ)

漠 おうよ！！(ト、言いながらも近づけない)

とと 海の男だろ？

とと、カイコーの傍らに、途端カイコーが寝返りをうつ。
驚く漠ととと。

とと 生きてる。

麒麟 (カイコーに恐る恐る触り) 大丈夫？

カイコー (反応なし)

麒麟 (カイコーの上半身のコスチュームがはがれかかっているのを発見する)

これ、服だよ。

漠

とと

麒麟

漠

麒麟

とと

麒麟

なに？

じゃあ人間？

とにかくこのままじゃ死んじゃう。運ぼう。

どこに？

病院に決まってるでしょ。

母ちゃんに車で来てもらう。

早く！！

とと、走り去る。

暗転。

岡田劇場。

石持がテーブルを持って走り込んでくる。

石持

岡田さん、交渉のテーブルを持つてやって参りました。大関東不動産社長・石持岩男でございます。少しの時間考えて大きなプランを思いつきました。これなら岡田さんも承知するでありますよう。岡田さん、岡田さんったら岡田さん。返事がないのは本当に留守か、あるいは居留守。こうなったらフレンドリーに呼ばしていただきましょう、岡ちゃん。わたくしのことはいっちゃん呼んで下さい。岡ちゃんいっちゃん、いいんじゃない？

岡田、時子が出てくる。

時子

うるさい人ね。

石持

地声でございます。学生時代演劇部に所属しております、発声練習しておりますしたら部長にうるさいと怒鳴られた男です。

岡田

帰ってくれないか。今から仕事だ。

石持

仕事？誰か映画を見るお客でも？

岡田 あんたが見るか？

石持 わたくしはインド映画しか見ませんが、

岡田 あいにく邦画しかない。

石持 それじゃ映画鑑賞は遠慮します。

岡田 じゃあ帰ってくれ。

石持 まあまあ岡ちゃん、

岡田 岡田だ。

石持 お時間は取らせません。このテーブルを持ってきて成立しなかった交渉は

皆無です。

へえ、

時子 ですからもうこれからわたくしのくっちゃべるプランを岡田ご夫妻は飲ま

ざるを得ないんです。

時子 強引な人ね。

石持 ゴーイングマイウェイ。

岡田
帰れ！！

石持
では岡田劇場跡地から離れましょう。(移動して)ここは公道です。どうか、もはやこの晝浜の土地に公の土地は無くなります。岡田劇場跡地を除いてすべてわたくしが買い上げますので石持岩男の私有地です。

岡田は登場してきたときから映写機のそばに行っていた。そして、この間に映写機を手探りで操作し何か映画をかける。

この映画の音声で石持の台詞はほとんど聞こえなくなる。

石持

(しかし負けじと)岡ちゃんがあくまで売らないというならそれで結構。

このままこの廃墟の映画館で暮らして下さい。わたくしはこの岡田劇場跡をそのままテーマパークの借景として使うことを決めました。

え！？英ちゃん映画を止めて！！

岡田
時に

なに？

時子

映画を止めて！！
映写機を止める。

時子

もう一回言つて。

石持

喉がつぶれた。

時子

役者だったんでしょ？

石持

花形です。

時子

ならもう一度。

石持

どこからですか？

時子

最後の方、

岡田

岡ちゃんがあくまで売らないというならそれで結構。このままこの廃墟の映画館で暮らして下さい。わたくしはこの岡田劇場跡をそのままテーマパークの借景として使うことを決めました。
テーマパークの借景だと？

石持

かつて震災と津波に襲われた海辺の町は瓦礫の山と破壊され尽くしたビルジングや家屋、打ち上げられた漁船で覆われていました。しかし、その凄惨な刻印も数年できれいさっぱり片付けられてしまった。まるで何事もなかったかのように人々の記憶から消去されてしまった。

時子

あんなこと、忘れたいから当然じゃない。

石持

では奥さん、何故あなたはこの岡田劇場をそのままにしておくんですか？

時子

この場所から去ることなんて考えられない。

石持

忘れたくても去りがたい、か…、

時子

あんなことがあってもこの浜の空気は元に戻った。

岡田

ここにテーマパークを造るって？

石持

ええ、岡ちゃんご夫妻と同じでわたくしもあの震災と津波を忘れたくない

時子

んです。ということは思いは同じ、同志ですね。

岡田

俺はこの港町で映画をかけるのが好きだった。いくらお客が少なくてもこ

岡田 時子

の浜の人たちはあつたかくてな。一週替わりで新しい映画をかけるときには必ず見に来てくれた。時化で海に出られない漁師たちは酒臭い息を吐いて東映映画の最初の岩に砕ける波しぶきに歓声をあげたよ。じいさん達のためには「七人の侍」「忠臣蔵」「旗本退屈男」、ばあさん達には「君の名は」と「愛染かつら」を何回でもかけた。時にはカラオケ大会の会場にもなったし、どき回りの芝居一座の劇場にもなった。

この映画館には一本一本の映画と共に浜に住んだ人たちの記憶が残っている。十年前の地震と津波の日、次の日から春休み映画としてかけるアニメ映画を試写していた。お客は時子と時子に抱かれた乳飲み子のとどだった。そんな平和な午後の時間帯にあの大きな地震が来た。

地震の後、奇妙に静かだったわ。とても泣かなかった。

切れたフィルムで俺は目をやられた。目からしたり落ちる血で津波は真っ赤だった。昔こんな映画を見たことがあるような気がしたが、俺たちは命からがらこの映画館から脱出した。その時、俺は岡田劇場が運良く残っ

たら、ここで一生映画館を続けようと思ったんだ。

この映画館が頑丈だと思った人たちが避難してきて大勢亡くなった。だからここは供養の建物でもあるんだ。

だからここは売らない。

あんたの道楽でやるようなテーマパークの借景にもしない。

ととが走り込んでくる。

とと

母ちゃん、車出して!!

時子

どうしたの？

とと

人のような魚が、

時子

人のような魚？

とと

魚のような人が、

時子

半魚人？

とと
時子
石持
時子
とと

溺れたんだ。
何言ってるの？とと、
カイコーが溺れた？
カイコー？
町の病院に運んで！！

即製の担架にカイコーを乗せ二人がやってきた。

漠
麒麟
時子
麒麟
時子
時子
漠

ピーポーピーポーピーポー！！
時間もつたいないから運んできた！！
これが、半魚人？
さあ…、
人工呼吸やった？
こんななんだかわからない生き物に気持ち悪くてやれねえよ。

時子、やおらマウスとウマウスを始める。
ビクンとカイコーの体が反応する。

漠

生き返ったぞ。

カイコー、ゆっくり上体を起こす。

カイコー
漠・とと

(見直し) ここは？ (発語が正常になっている)
喋った！！

カイコー
石持

(ふらつと起き上がり自分の体を確認する) なに、これ？
やっぱりガセだったか。

カイコー
とと

(カイコーに) ね、病院行かなくてもいいの？
病院？

カイクー

とと

あんたは溺れて浜辺で倒れていたんだ。
溺れた？

壽賀子が股の入ったバッグを持って登場。

壽賀子

石持社長遅くなりました。股をお持ちいたしました。(顔を上げるとカイクーが目に入る) 化け物!!!ここにいたか!!! (バッグを投げ捨てカイクーに飛びかかろうとする)

石持

壽賀子、カイクーは人間だ。

壽賀子

!?

石持

小桜に騙されたんだ。

壽賀子

そうですか、しかし、社長、人間だろうが、半魚人だろうがこいつはわたしにとって忌々しい存在に変わりありません。(カイクーに向かう)

カイクー

(壽賀子にビンタ)

壽賀子

(急なことに驚き) !!

カイコー

わたしはお前の奴隷になんかならない。お前がわたしに浴びせた罵倒はみんな覚えてる。無意味で根拠の無いその罵りをぶつけたのはお前だけじゃなかったけど。今度はわたしがお前を罵ってやる。お前は気持ちの狭い差別者だ。クズ!!!

壽賀子、呆然として歩き去る。

石持

壽賀子、どこに行くんだ？

カイコーも自分のコスチュームを破ろうとしながら去る。

とと、カイコーの後についていこうとして、

麒麟

とと、進水式だよ。

とと

漠

時子

麒麟

時子

岡田

石持

岡田

石持

岡田

石持

岡田

石持

ああ、そうだ。

すつかりこの騒動で遅れちまった。

そうか、第三暁丸の進水式だったね？

そう！！

英ちゃん、行こう。お祝いしようよ。

ああ、そうしよう。

まだ交渉が済んでおりませんが。

ここは売らない。

ええ。

テーマパークの借景にもならない。

じゃあどうするんですか？

さあ、どうしようかあ、優柔不断な俺にはどうしたらいいかわからない

ああ。

岡田さんが優柔不断？

岡田 この国のお偉方も優柔不断だからこの場所は十年間ほったらかしのまんま

だ。だから俺もお偉方の真似をしてふんにやかむんにやかするよ。

石持 それは困る。

岡田 俺も困る。

時子 わたしも困っちゃった。

漠・麒麟・とと 困っちゃうなあ!!!

岡田 漠、今日は盛大に飲むぞ。

漠 おうよ!!!

時子 第三暁丸がちゃんと海に浮かんだらね。

麒麟 浮かぶよ、ねえ兄ちゃん!!!

漠 浮かばいでか!!!

岡田たち、ガヤガヤと進水式に向かう。
入れ替わって小桜とビッグが登場する。

小桜 社長、

石持 ……、

小桜 カイコーが行方不明なんですよ。

石持 行方明白だ。

小桜 行方明白？

石持 今さっきまでここにいた。

ビッグ
ええ。

小桜 疑問形だ。どこ行きました？

石持 あっちなかな、

小桜 ビッグ、探してくれ。

ビッグ
ええ？ええ。

小桜 それでいい。

ビッグ、カイコーを探しに去る。

君にはいっぱい食わされたな。

社長を接待した覚えはありませんね。

カイコーは人間だった。

…

まさかとは思ったが、やっぱりまさかだったな。

カイコーを見て壽賀子のようになる人間がいる限り、それがまさかであっても構わないんじゃないですか？社長のテーマパークには最適だ。

しかし、カイコーがそれを拒むだろう。

あいつをマインドコントロールしてますから大丈夫ですよ。

それが解けた。

え？

溺れて助かり、意識が戻るときにマインドコントロールも解けたんだろう。いずれ自分の名前も思い出す。

小桜
石持

……、
どこで拾ったんだ？

側溝だったろうか、川だったろうか、塩を含んだ水、どろりと紅い。満潮の海水、荒れ野を流れる。幼児の死骸、短い一生を振り返ることも出来ないだろう脳みそ。老人の死骸は朽ち木のようだ。憎いきらびやかな贅沢も、愛すべき几帳面な清貧も、みんなごっちゃに海に流され、残った物は瓦礫になった。笑ってやろうか文明、笑いたくないのに横隔膜が動く。この光景を見て奇妙な征服感が湧いてくる。みんなガラガラポンになればいい。ミーは狂い始めているかもしれないと、瓦礫の町を歩いていたんですよ。昆布やわかめを体にまとわりつけて倒れている者がいた。死骸だろうと通り過ぎようとしたらそれが動いたんです。呼びかけたとき、自分の名前を呟いたようだったが、後はほとんどが意味不明だった。それがあのカイコーですよ。そしてカイコーはその町の住人でもなかった。どこか津波の町から流れ着いたものでしょう。

石持

そして半魚人に仕立て上げた。

ト、ビッグと見知らぬ者が登場する。

ビッグ

カイコーはいないが、こんな人はいた。

それは半魚人としてのコスチュームを脱ぎ捨てたカイコーだった。

カイコー

(小桜を見る)

小桜

…カイコーか？

ビッグ

ええ！？

カイコー

わたしは半魚人じゃない。

小桜

(うすら笑い) 良かった。自分のことを思い出したか？

ビッグ

どうやって自分のことを思い出したんだ？

石持

溺れて死ぬところだったのさ。

ビッグ
俺も溺れたが自分を思い出さない。

カイコー
殺してやる。

小桜
殺されるいわれはない。楽しい生活を送ってきたのに。

カイコー
楽しいことなんてこれっぽっちもなかった。

小桜
そうか、お互いの認識がずれていたようだ。

カイコー
人でなし！！

カイコー、小桜に飛びかかり首を絞めようとする。

小節が登場し、カイコーを引き離す。

小節
駄目だ、こんなことやっちゃいけない。

カイコー
邪魔するな！！

小節
どんな理由か知らないが、この浜でこんなことやっちゃいけない。ここは多くの人が亡くなっているところだ。それも死にたくて死んだんじや

ない。生きたくてもどうすることも出来ず無念の思いで死んで行った場所だ。そんな場所で人を殺めちや駄目だ！！憎しみと欲望をこの場所に持ち込むな！！

カイコー、崩れ落ちる。

小節

(じつとカイコーを見る) お前さんの名前は？

カイコー

キダチハル。

小節

良かった。思い出して。

キダ

良くないよ。あの時のことが悪夢のように蘇ってくる。

小節

津波に吞まれたんだね？

キダ

わたしが暮らしていた町もこんな荒れ果てた姿になっているんだらうね。

小節

どこだい？お前さんの故郷は、

キダ

北上小泊浜。

小節

小泊か…、

キダ

帰る。

小桜

お前さんの帰る家はもうこの地上に無い。

小節

どうしてわかる？

小桜

調べ上げた。カイコーとして生きてもらうためには家族がいたんじや無理

キダ

帰る。

小節

(小桜に) 解放するんですね？

小桜

もうタレントとしての値打ちがない。

キダ、歩き出す。

小節

一緒に行こう。小泊はわたしの故郷へ帰る途中だ。

キダ

(頷く)

小節

岡田さん達にお別れをしたいが、浜かな。

小節、キダ去る。

石持

あんたはどうする？

小桜

ビッグの記憶をカイコーのように取り戻し、サーファーとして儲けてもら

うさ。

ビッグ

ええ。ええ？

小桜

申し訳ないが、カイコーはいなくなったから社長とは組めなくなった。

石持

そのようだな。

小桜

「どんな理由か知らないが、この浜でこんなことやっちゃいけない。ここは多くの人たちが亡くなっているところだ。それも死にたくて死んだんじやない。生きたくてもどうすることも出来ず無念の思いで死んで行った場所だ。そんな場所で人を殺めちゃ駄目だ！！憎しみと欲望をこの場所に持ち込むな！！」か、

声 声 声 声 声 声 声

波の音大きく、そして音楽。
暗転。

方形の枠を持った人々、登場。

静かな海だ。

この静かな海が暴虐の限りを尽くしたことを忘れない。
時に自然は無慈悲で容赦ない仕打ちをくだす。

その前で人間はただただ祈るしかない。

物語は完結するが震災後の日常は続く。

多くの死者と膨大な瓦礫を背景にして、

わたしたちは生きていく。

ここは約束の地なのだろうか？

声 声 声

荒涼とした原野の先を目指して歩く。
その人々はどこから来て、何処へ去るのか、誰も知らない。
ただ歩くのみ。

檻樓も登場している。

檻樓

こんなに心地よい陽の光と快い潮風なのに、この港町だったところには人がいない。浜辺に見える小さな足跡は一つ残らず海の方に向かっていた。みんな海底へ行ってしまったのかい？そこは素晴らしい世界なんだろうね。誰かが瓦礫を道ばたに押しやらなければならぬ。亡骸をいっぱい積んだトラックや手押し車の荷車が通れるように。誰かがはまり込んで苦労しなければ。汚泥と灰とヘドロの中に。家具や調度、日用品だった物に、ガラスのかげらに折れ曲がり粉碎された柱に、血みどろのぼろ布の中に転がりはまり込み、苦労しなければ。その果てに約束の地が現れることを願って。

その思いを最後まで諦めず携えるのは、わたしたち東北人だよ。

背後から煌々たる光。

そして船が現れる。

それは第三暁丸に違いない。

声がする。

麒麟

漠

岡田さん、時子さん、とと！！

第三暁丸出航だあ！！

十年ぶりに暁浜に船が浮かんだ。

終わり

東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。

台本は稽古過程で修正をしていきます。

この台本は上演までの過程の記録とお考え下さい。